
気候変動は平和の問題

Climate justice

地球温暖化により、異常気象（ハリケーン、洪水、干ばつなど）の頻度と強度の増加するために、他地域に移動しなければならない人々。彼らは**気候難民**と呼ばれる。



気候変動により大きな被害を受けるのは、化石燃料をこれまであまり使ってこなかった途上国の人たちやこの問題に責任がない将来世代。**社会的弱者のいのちの危険が高まる。**



気候危機は、単なる環境問題である以上に、重大な平和や人権、いのちの問題。



気候変動は、最大の人道・人権問題



中村哲 医師

「気候変動が地域と生活を破壊している」
大干ばつに襲われるアフガニスタンの状況を踏まえて。



メアリーロビンソン 元国連人権高弁務官、元アイルランド大統領

「人権高等弁務官に就いたばかりの頃は、気候変動には関与していませんでした。きっかけは、食べ物や安全な水、健康、教育や住居といった国民の権利に気候変動が大きな影響を与えていることを知ったときでした。」

世代間の不公平

温暖化対策を決める政治家の多くは高齢で、実際に影響を受ける若者の声が軽んじられている。これまで地球温暖化の原因となる大量の温室効果ガスを排出してきたの世代ではない将来世代が甚大な被害を受ける。また、今の大量生産・大量消費という社会システムを作ってきたのも現行世代である。

地域間の不公平

先進国に暮らす人々が、化石燃料を大量に消費したことで引き起こされた気候変動への影響が、あまり使用していなかった途上国の人々へ被害を被っている現状がある。気候変動に関する政府間パネル(IPCC)の予測では、気候変動の影響は特に途上国において、貧困を悪化させ、人間開発を妨げるとされる。



「あなた方は、自分の子どもたちを愛していると言いながら、その目の前で子どもたちの未来を奪っています。」グレタ・トゥーンベリ

子どもたちが怖いのは
「環境の深刻さ」だけでなく
「口だけで行動しない大人の背中」

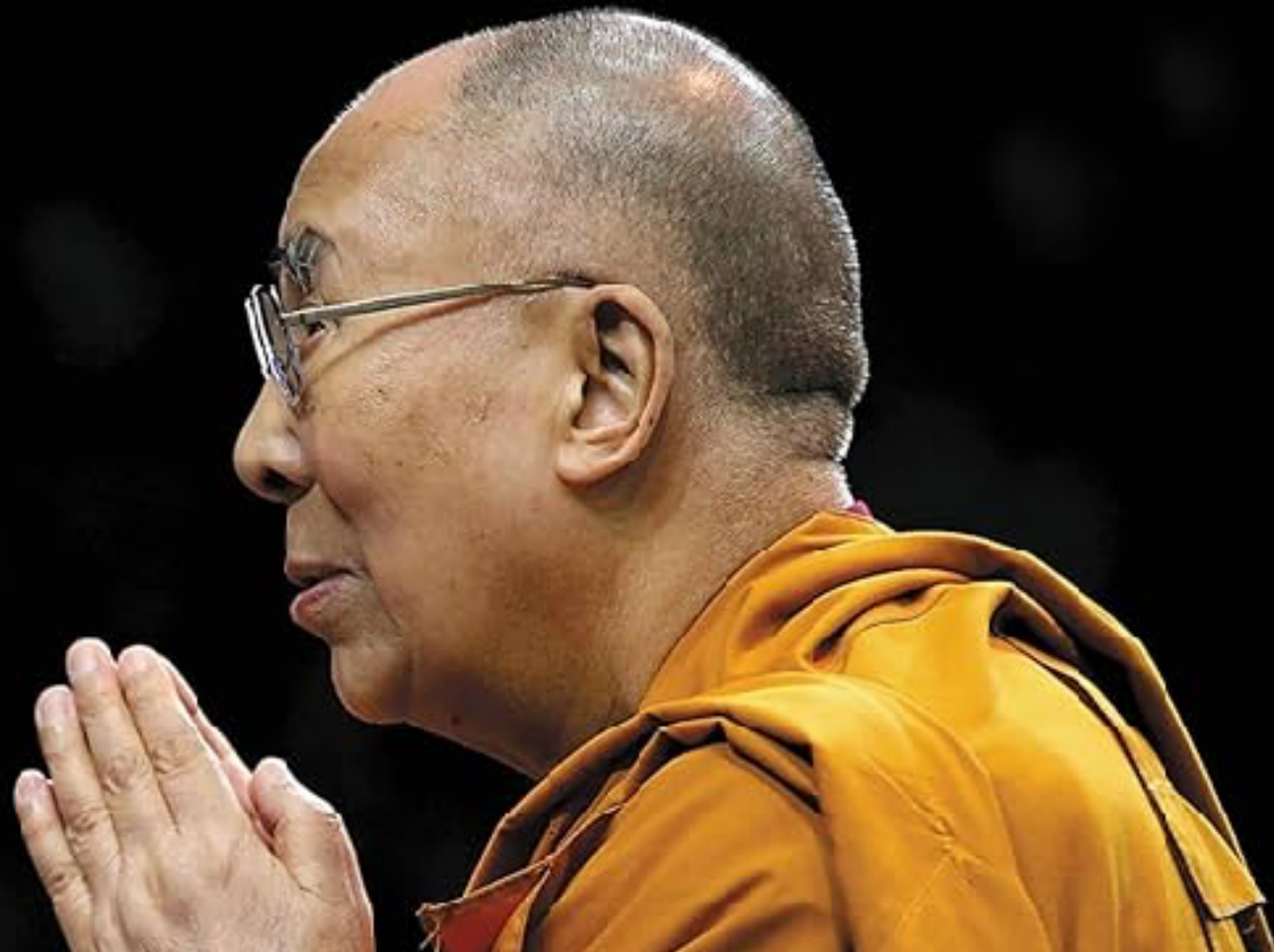
世界の宗教者の動き01



バチカンが「化石燃料不拡散条約」を支持 パリ協定の実現後押し

フランシスコ・ローマ教皇は2013年の就任以降、地球温暖化による気候変動問題への対策を熱心に訴えてきた。こうした教皇の姿勢の象徴が、2015年6月に発表された「回勅」。回勅は教皇が信者向けに発する最も重要な公的文書の一つ。そこで教皇は、気候変動と生態系の破壊が「深刻な結果を招きかねない」と警鐘を鳴らし、国際社会に迅速な取り組みを求めた。環境問題に特化した回勅はキリスト教カトリック教会史上初めてだった。

OUR ONLY HOME A CLIMATE APPEAL TO THE WORLD



気候変動対策を促す著物を発刊

チベット仏教の最高指導者ダライ・ラマ14世は世界のリーダーに対し、気候変動対策をただちに実行に移すよう訴えた。また、気候変動による環境破壊が進めば数十億人の生命が脅かされ、地球そのものが破壊されると彼は警告している。それは彼の故国チベットも例外ではないという。気候変動対策を促す一環として、ダライ・ラマは新著『私たちのただ一つの家：世界に向けた気候変動の警告 (原題: Our Only Home: A Climate Appeal to the World)』(未邦訳)を出版した。

世界の宗教者の動き03



諸宗教指導者らの集い

英グラスゴーで2021年11月に開催されるCOP26を前に、バチカンで諸宗教リーダーの集いが行われた。アル=アズハル・モスクのグランド・イマーム、アフマド・アル・タイーブ師、正教会のエキュメニカル総主教バルトロメオス1世をはじめとする世界の諸宗教の指導者らおよそ40名と、また外交関係者や科学者らと共に、バチカンの「祝福の間」に集った。

「**ありがとう**」の反対は「**あたりまえ**」

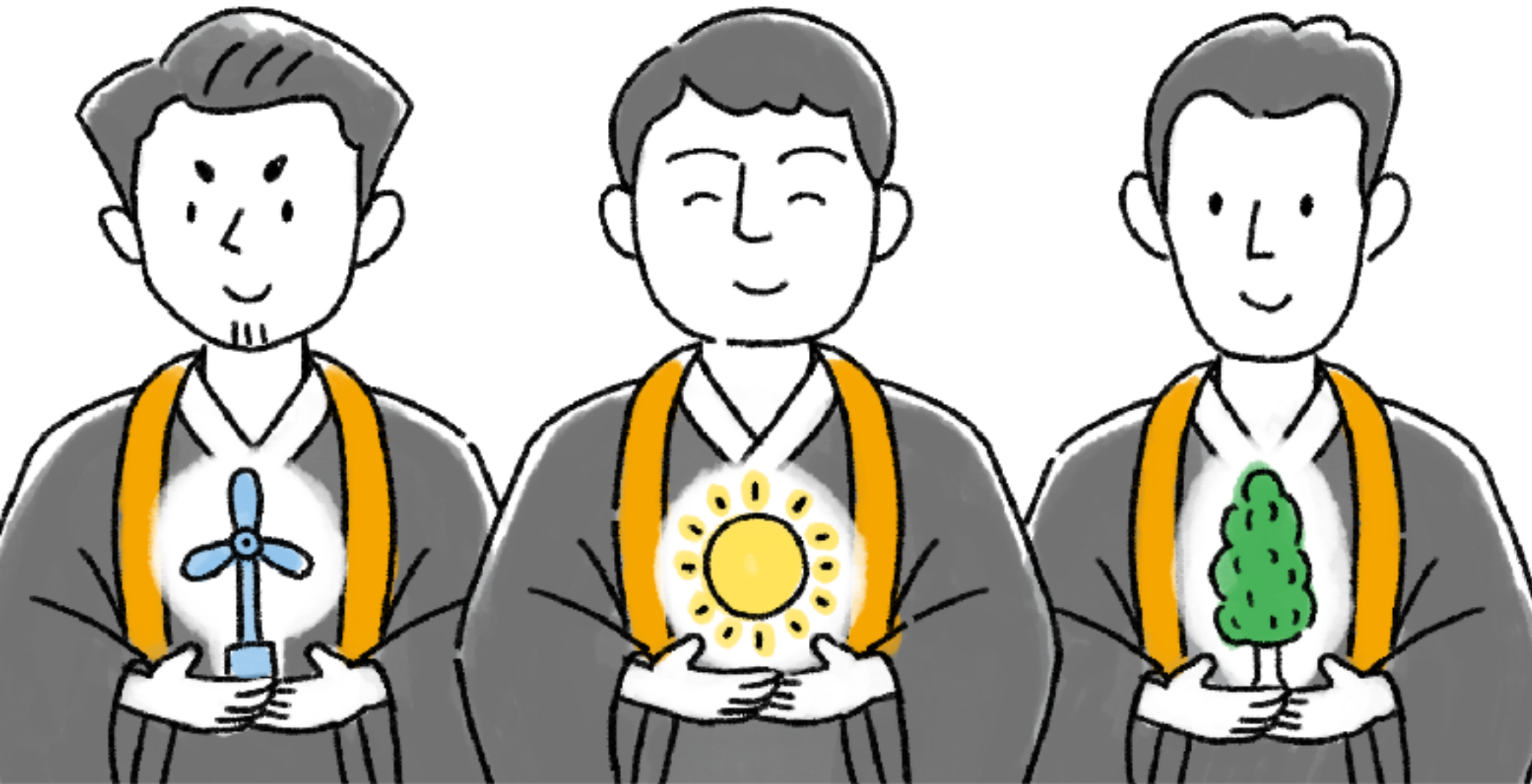
平和は当たり前ではなく

先人が命懸けで遺してくれたもの



TERA Energy

利他の実践



未来を照らす

戦争、貧困、格差、自殺、気候危機...
課題だらけの暗い世の中に
優しく温かな光を照らしたい

全国のお寺数

7万7342 カ寺

全国のお坊さん数

33万88895 人

電気を 民主化する

ヨーロッパでは、ローカルの小さな電力会社が沢山あり、みんながお気に入りの電力会社を選択しています。

100%自分たちで発電した電気で暮らす村、地域のバスを無料で走らせる電力会社など。

そこには、社会が大きく変わる面白い工夫が満載です。

日本でも、2016年にすべての電気が自由化されました。

せっかく自由化されたのですから、活用しない手はありません。

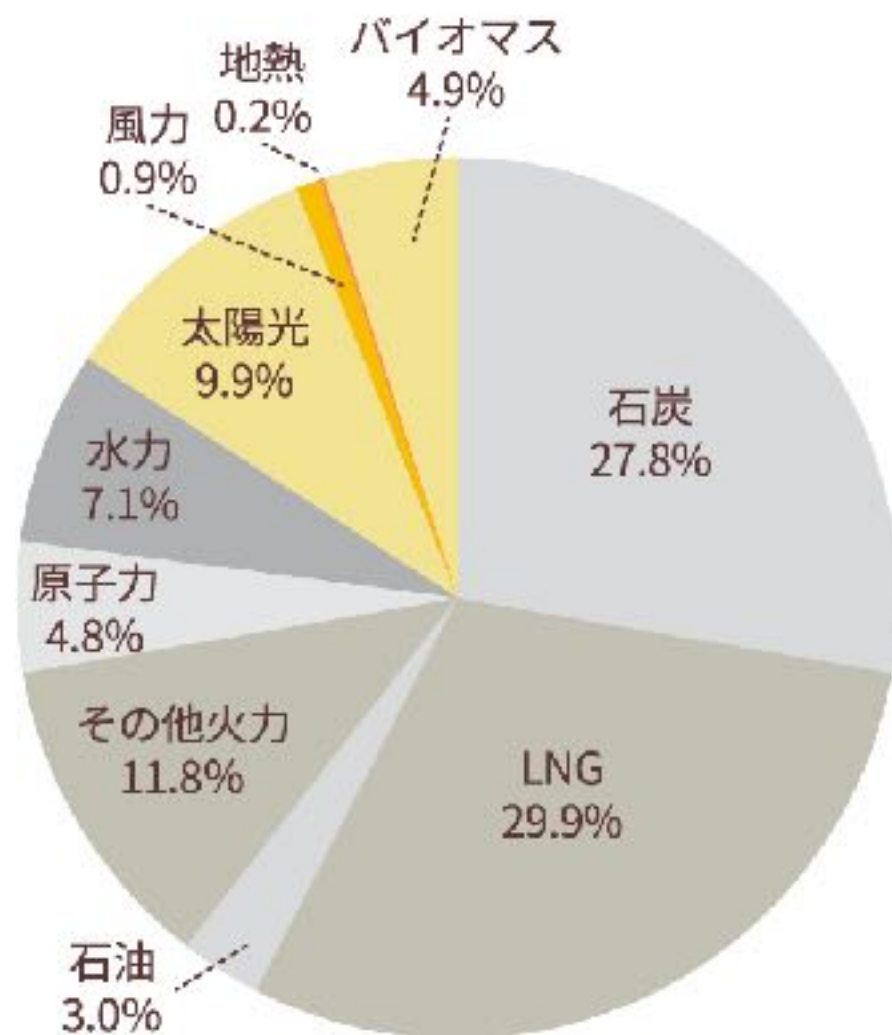
そこでわたしたちは、電気の仕組みで、

みんなのところが温かくなる工夫ができないかと考えました。

そうして、できあがったのが**テラエナジーでんき**です。

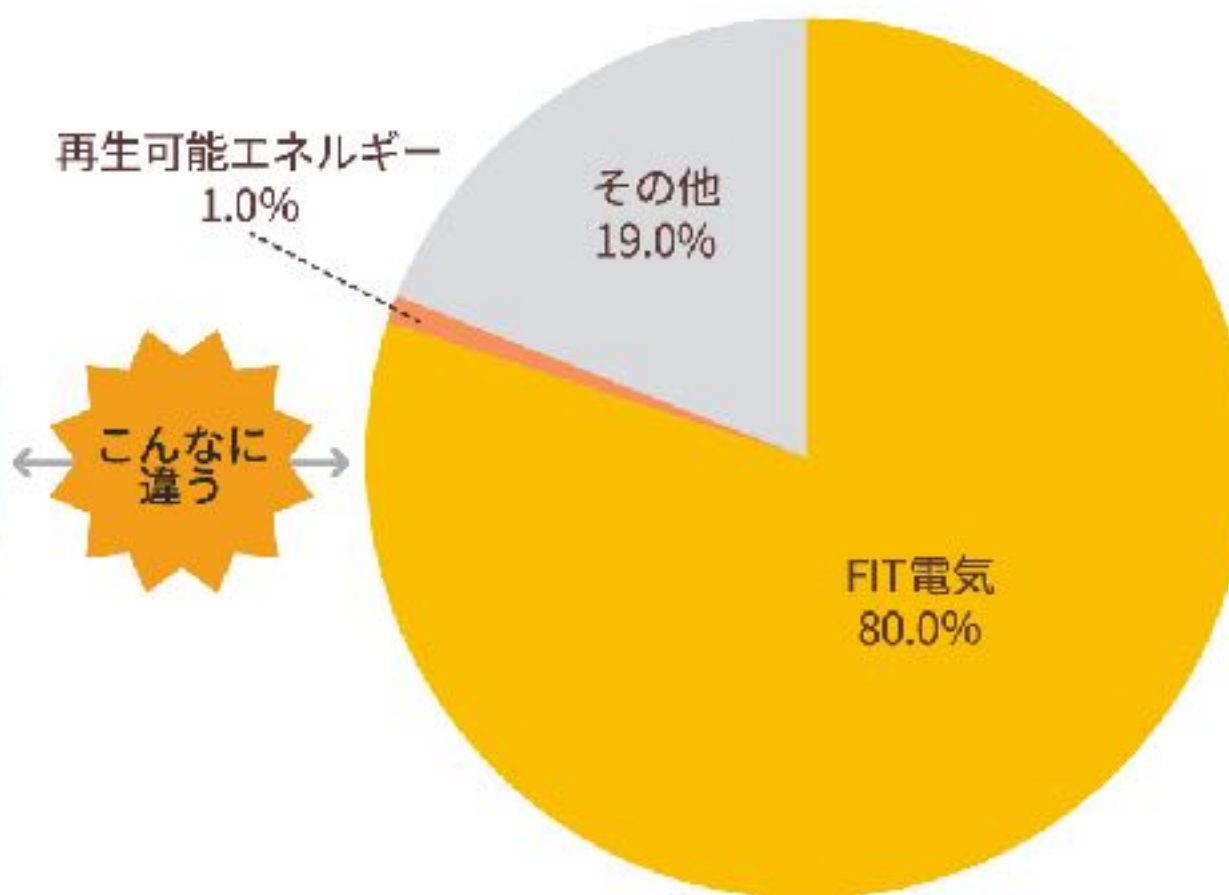
こだわりの電源構成

日本全体の電源構成
(2022年度実績値)



出典：経済産業省資源エネルギー庁
各種統計情報（電力関連）

テラエナジーでんきの電源構成
(2022年度実績値)

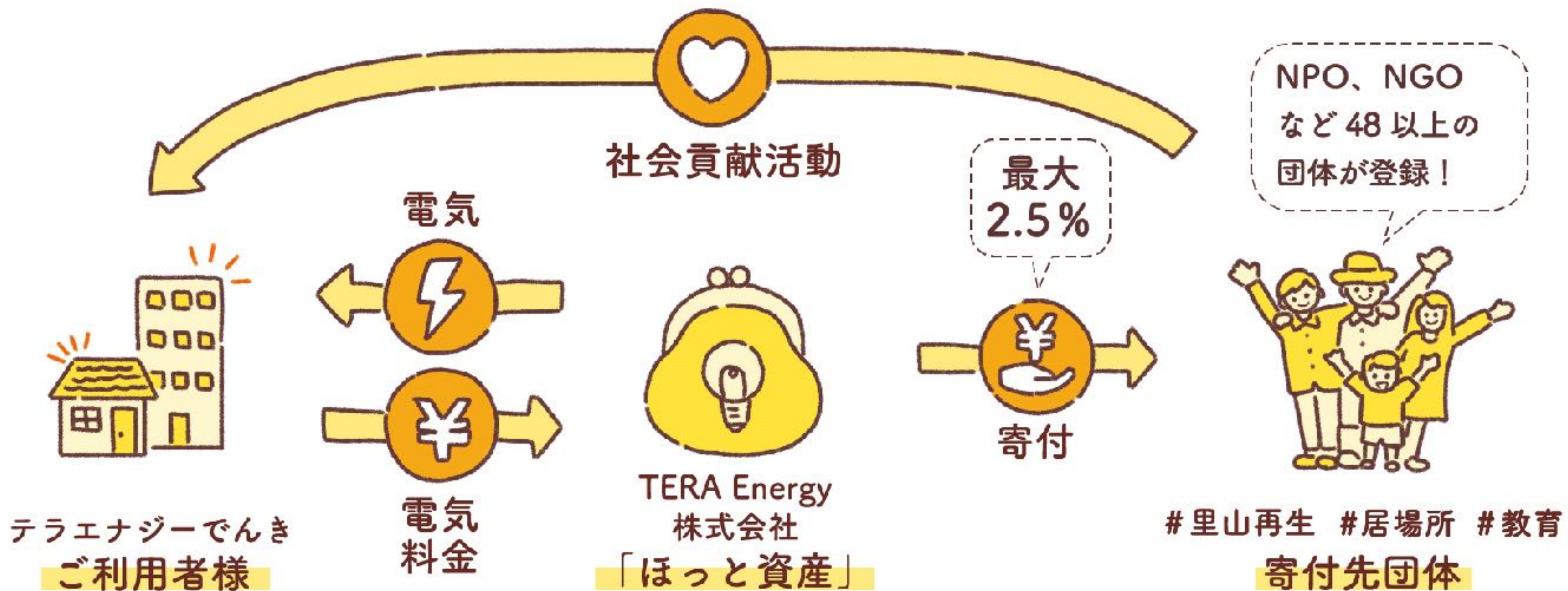


こんなに違う

FIT電気+再エネ
81%

寄付つき電気

毎月の電気代を社会のために



寄付先団体



認定NPO法人
気候ネットワーク



認定NPO法人
国際環境NGO FoE Japan



一般社団法人
あわエナジー



認定NPO法人
おかやまエネルギーの
未来を考える会



あおぞら財団
(公益財団法人公害地域再生センター)



NPO法人
ECO ネットよどがわ

64団体に総額**412**万円を寄付

2022年4月から2023年3月までの実績

電気を選ぶことは 世界を変えること

日本では半世紀以上、電気を選択する余地はありませんでした。電力会社を選ぶことはできず、電気料金は地域の電力会社が決めた通りに支払ってきました。

もちろん、戦後の復興のためには国策として、独占企業が指定され、そこに大きな権限を与えて、安定的に電力を供給する環境を整えることは必要なことでした。

しかし、現在は電気のインフラは整備され、電力は安定的に供給されています。戦後復興期のインフラ整備型の仕組みから、今の社会に合った仕組みに大きく変化しなければなりません。

電気を選ぶことは投票行為に似ています。どんな生活を求めているのか、どんな未来を100年後の子どもたちに受け渡していきたいのか、わたしたち一人ひとりの選択が未来を形作ることになります。

脱炭素先行地域

日本の取り組み



カーボンニュートラル宣言

菅首相は、2020年10月26日の第203回臨時国会の所信表明演説において、「2050年に温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする」、すなわち2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すことを宣言した。

2020

2025

2030

2050年を
待たずに

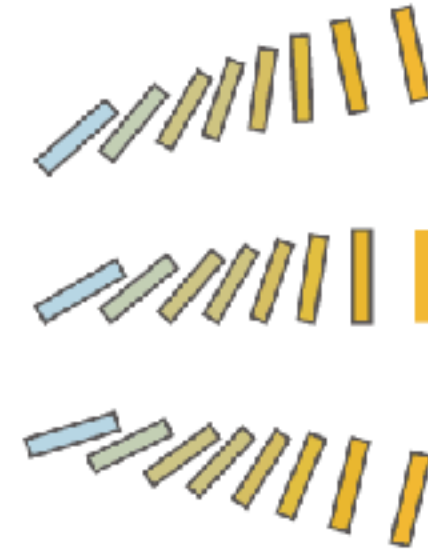
2050

5年間の集中期間に
政策総動員

- ① 少なくとも100か所の脱炭素先行地域
- ② 重点対策を全国津々浦々で実施

脱炭素ドミノ

全国で多くの

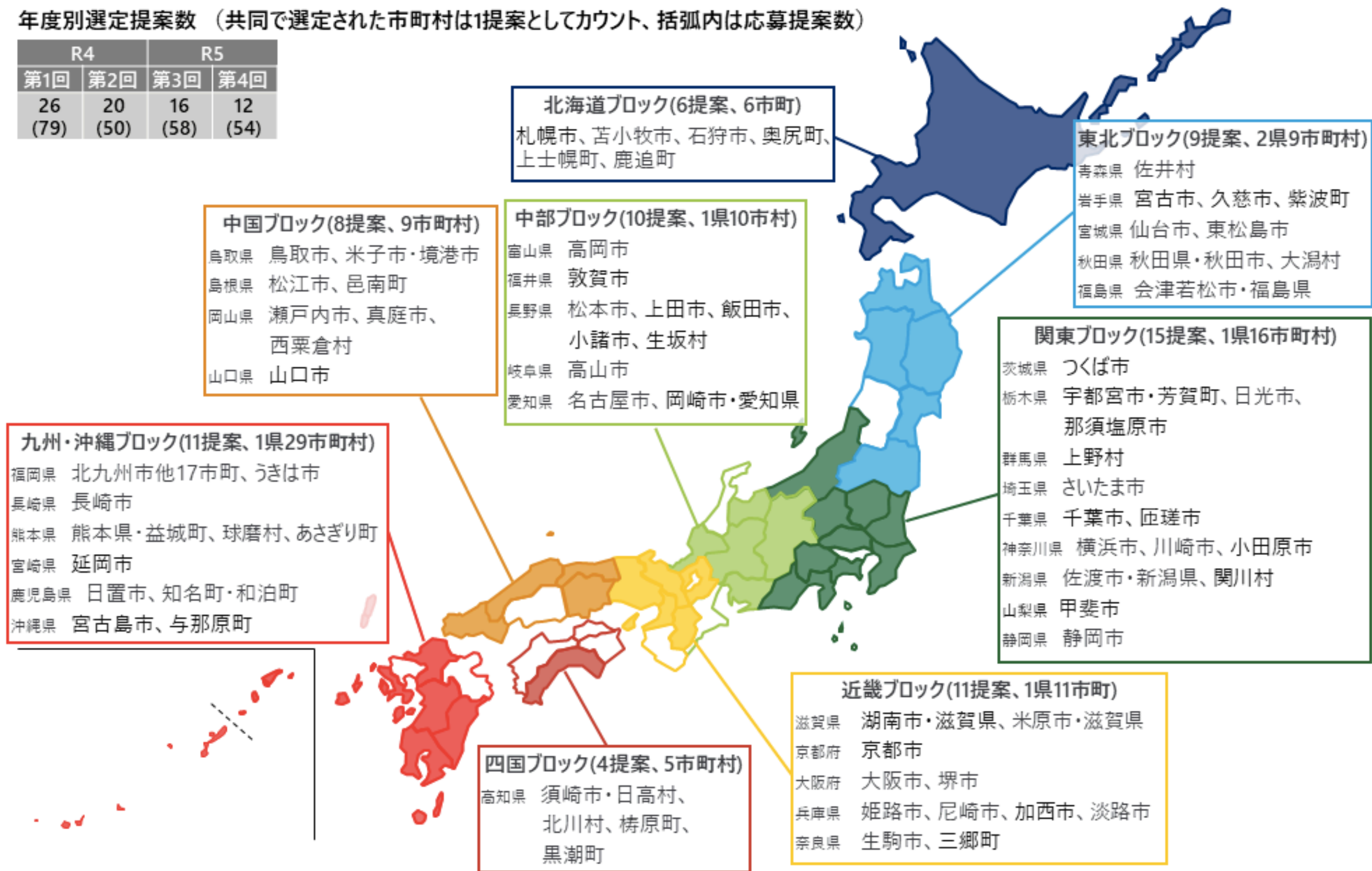


脱炭素で強靱な活力ある
地域社会を全国で実現

脱炭素先行地域(74提案)

年度別選定提案数 (共同で選定された市町村は1提案としてカウント、括弧内は応募提案数)

R4		R5	
第1回	第2回	第3回	第4回
26	20	16	12
(79)	(50)	(58)	(54)



京都市脱炭素先行地域 概要

京都の文化・暮らしの脱炭素化で地域力を向上させるゼロカーボン古都モデル

1. 対象とする地域の位置・範囲、需要家数、民生部門の電力需要量等

伏見エリアを中心としつつ全市を視野に入れた
文化遺産群・商店街エリア等

- 伏見エリア
- 市内で最も古い市街地の一つ、寺社や商店街を拠点に地域コミュニティを形成
 - 環境関連施設が集積

文化遺産群の脱炭素転換

再エネ設備・蓄電池
再エネ電力調達

15箇所 ⇒ 2030年 100箇所

現時点で、取組に賛同をいただいている文化遺産（2022年11月時点）

<伏見エリア>

伏見稲荷大社、藤森神社
真宗大谷派（東本願寺）伏見地区寺院
（東本願寺伏見別院、浄徳寺
光啓寺、専念寺、善通寺、受泉寺）
醍醐寺、妙福寺、大黒寺

<市域波及>

壬生寺
北野天満宮
法然院
京都御苑

伏見商店街エリアの脱炭素転換

PV・蓄電池
再エネ電力調達

3商店街・187全加盟店

- ・伏見大手筋商店街
- ・納屋町商店街
- ・竜馬通り商店街

アーケード全長560m



京都広域再エネグリッド協議会
でエネルギー管理を一元化



住宅群・エリア

- ◆既存住宅群 市内各所100戸
- ◆市有地活用型脱炭素街区エリア
 - ・伏見工業高校等跡地エリア400戸
 - ・三宅市営住宅跡地エリア 14戸

グリーン人材育成拠点群

65施設

- ・龍谷大学深草キャンパス 28施設
- ・立命館大学衣笠・朱雀キャンパス 36施設
- ・京エコロジーセンター 1施設

地域コミュニティ拠点

歴史の古い文化遺産や商店街等を脱炭素転換することを通じて、
訪れてよし、商ってよし、住んでよしのサステナブルな賑わいを創出

なぜ京都市は寺社に着目したのか？

宗教都市・京都市としてのブランド

地域の特色を活かした事業でなければならない。京都市には寺社が1700ヶ所ある。数年前からテラエナジーと連携して、宗教者向けの気候変動研修会を実施していたため実現可能性が想像できた。

文化庁の京都移転

文化遺産を次の千年にも持続可能な形で継承していくに当たり、他の施設と比べて再エネの設備の導入が困難な状況を有する。そのなかで、文化遺産の持続可能な保存・活用と脱炭素転換を同時に進めることで、京都から課題解決モデルを提示。

寺社の公益性への期待

寺社は永年にわたり自然を守り、自然と共生する価値観を大事に、足るを知るを体現してきた存在。こうした暮らしや営みを続けてきた寺社が脱炭素化に取り組むことは人々の生活様式の変化に結びつくことが期待される。

京都市との連携



京都市と広域再エネグリッド構築に関する 連携協定を締結

京都市とは、これまでに宗教者を対象とした勉強会を共同で開催するなど、気候変動に関する連携をとってきた。連携をより実践的な取り組みにすべく、地産地消の再生可能エネルギーを広める連携協定を締結。

脱炭素転換の取組内容と補助金による支援メニュー

つくる 寺社保有地への太陽光パネルの導入

- 景観等に支障を及ぼさないことを前提に、境内地内の施設や駐車場等へ太陽光パネルを導入
- 災害時における地域の災害対応力強化にも貢献

へらす 電灯のLED照明器具への切替

- 電気代やメンテナンス代を削減

ためる 太陽光パネルと併せた蓄電池の導入

- 夜間も電力供給を確保し、更なる災害対応力強化

つかう 再生可能エネルギー100%への切替

- 使用電力を100%再エネ由来に転換することで、電力使用に伴うCO2排出量をゼロに
- 必須取組

エネルギーの地産地消で自給自足した地域づくり

地球温暖化防止

エネルギーの輸送に伴う二酸化炭素などの温室効果ガスの排出が削減され、地球温暖化の防止につながります。同時に、化石燃料による大気汚染も減少し、大気中の有害物質の浄化や健康被害の軽減につながります。

エネルギー安全保障

輸入エネルギーに頼る必要がなくなり、エネルギー安全保障を確保することができます。また、エネルギーの供給安定性が高まり、エネルギー事故や停電などのリスクも低減されます。

地域災害対策の拠点となって安心安全な地域づくり

緊急時の電力供給

太陽光発電と蓄電池を備えることで、停電時や災害発生時などに緊急時における電力供給が可能となるため、住民はより安心して暮らすことができます。

住民の防災意識向上

設置された太陽光発電や蓄電池が、地域の緊急時における電力供給に貢献することが広く知れ渡れば、住民は防災に対する意識を高めることができます。

社会を円滑に機能させるために有益な概念



賛同寺院



壬生寺

寺社と併設していて、宗教法人が母体となっている法人の施設ならば、幼稚園・保育園、福祉施設に設置を検討している。



法然院

長年にわたって環境問題に取り組む。市民が出資・参画した太陽光パネルの設置にも尽力された。

脱炭素先行地域の取組効果

既存エネルギーコスト削減

- 太陽光発電設備で発電した電力を自家消費することで、電気代を削減
- 蓄電池を合わせて導入することで、夜間にも発電した電気を使用でき、電気代削減効果が増大

地域防災力の向上

- 敷地内に再エネ発電設備・蓄電池を備えることで、停電時や災害時に地域の電力供給拠点に
- 小型蓄電池(6.5kWh)でスマートフォン650台充電可能

発信・波及

- 京都市内・全国の寺院の脱炭素化への波及効果モデルを全国へ、日本全体の脱炭素転換に貢献
- 国内外から訪れる多くの参拝者や観光客への発信

発展的なアイデア

実践アイデア01



サプライチェーンの脱炭素推進

- サプライチェーンへの脱炭素化の呼びかけ
- 例えば本願寺御用達商「開明社」
- 仏具屋、墓石屋、法衣店、御香屋、菓子屋、檀信徒など

実践アイデア02



寺院が中心となり市民発電をサポート

- 本願寺脱炭素基金を設立
- 全国の寺院・門信徒から出資を募る
- 市民参画のノウハウも提供し寺院をサポートする

実践アイデア03



仏教思想からのアプローチを提言

- 環境哲学・倫理などを参考にした探求
- アルネネス「ディープエコロジー」との対話
- 意識の高い若者がターゲット

実践アイデア04



気候変動をテーマにした音楽イベント

- 音楽・グルメ・ワークショップなどのマルシェ
- トークセッションなどで仏教的なアプローチを発信
- ゆるやかに社会課題や仏教と出会う

実践アイデア05



SDGs修学旅行の受け入れ

- 京都市が力をいれるSDGs修学旅行
- 企業を中心に20社ほどコンテンツを提供している
- お寺×気候変動は京都ならではの訴求力あり

1人の100歩

より

100人の1歩

相田みつを

1924年-1991年(67歳没)



詩人・書家

平易な詩を独特の書体で書いた作品で知られる
多くの人々に強く影響を与えた

心は合はぬ
口は合はぬ
手は合はぬ
足は合はぬ
女は合はぬ
女は合はぬ
女は合はぬ
女は合はぬ
女は合はぬ
女は合はぬ



「わけ合えば」

うばい合えば足らぬ

わけ合えばあまる

うばい合えばあらそい

わけ合えばやすらぎ

うばい合えばにくしみ

わけ合えばよろこび

うばい合えば不満

わけ合えば感謝

うばい合えば戦争

わけ合えば平和

うばい合えば地獄

わけ合えば極楽

相田みつを

